

・自分のパートでは、「公開個別フォロー」を企画した。

1月のオフ会で、自然発生的に公開個別フォローのようになったことがあって、この時すごく自己開示できたという感覚があった。

これをみんなで共有できれば関係が深まると思ったのと、4月の時点ではまだお互い無自覚な遠慮がある状態だったので、それを取り払うきっかけになればと思ったからだ。

お題は「対面(合宿)だから話せること」。

当日、真っ先に手を挙げてくれたメンバーは、これからの人生の進路について話をしてくれた。

私は最初この話題を対面でないと話せない理由がわからなかった。

オンラインでは話せない程に、まだ壁があるのだろうかと思いき、しつこく聞いてしまったのだが、メンバーが今まで強い意志を持ってやって来た「研究者としての道」からは、遠回りになるかもしれない選択という意味で、伝えるのに勇気が必要だったのだと理解できた。

もう1人のメンバーは、今まで口にして来なかった子育てを通して感じる「言いにくさ」や「申し訳なさ」といった感情や、現状と理想とする人間関係とのギャップの話をしてくれた。

そう話してくれたメンバーは、合宿の2日間を通して、チームItoではとても伸び伸びしていると感じた。社会性の強さをここでは求められないからなのかなと思ったのだが、どうだろう？

公開個別フォローでは一緒になって悩んでしまっ、話を前に進めることができなかつたが、この部分をもっと伝えられれば良かったと振り返って思った。(続きは次回Mtgで)

私は前回のMtgで話した「子供のいる人生、いない人生」について、その後受けた個別フォローで気付いた課題、夫と話し合った内容について話をした。

自分の中では答えの出ていない話を、みんなの前でグダグダすることに抵抗があつた。

でも、自分の狭い視野では解決できないことはわかっているから、乗り越えるために、みんなに力を貸してほしいと思つた。

メンバー2人は自身の体験から思うことを聞かせてくれたり、子供がいるいないの立場に関わらず、フラットな気持ちを伝えてくれたことが嬉しかった。数か月前に同じ話題をしていたら、もっと遠慮にくるまれた会話になっていたと思う。

そして、1番心に残ってるのは、陽子さんに「子供のことから、急に話しにくくなるのが不思議だ」と言われたことだつた。

相手がゆうちゃんにしても、母親にしても、子供の話題をするのは正直とても勇気が要る。でも、それこそ自らタブーを作ってるようなもんで、自分の価値感を伝えるという意味では、話題に関わらず話せるのが理想なんだと思つた。

今回の合宿は、公開個別フォローの冒頭でも伝えた通り、「裸になる」気持ちで臨んでいた訳だけど、自分では裸になっているつもりでも、実はパンツを履いている可能性も

あって、そこをメンバー同士の声かけで、脱げるようになるといいなと思っていた。

が、実際に今回やってみて、相手も無自覚、自分も無自覚だったり、違和感に気付いて相手に伝えるまではできたとしても、一緒になって「どうしよう」となってしまうたり。そこから先に進む難しさをもものすごく痛感した。

陽子さんも最初はメンバー同士のやり取りに託そうと静観してくれていたのだと思うが、途中から放っておけなくなり、会話に参戦してくれた。メンバー同士の力で、決着は付けられなくとも、話を前に進められるようになりたいと思った。

そして、お題の「対面(合宿)だからこそ」の認識合わせができていなかったことは反省点。

話すネタは何であれ、脱ぎっぷりのようなもの(自己開示)をイメージしてしていたのだが、どんな内容であろうと、本質に切り込める自信があれば、設定にこだわる必要はなかったんだなあと振り返って思う。

オンラインではできない、色々な気持ちを共有できた時間だったけど、それと共に気持ちにスキルが付いていかない、力不足を感じた時間でもあった。

(E.M 40代女性 埼玉県)